

## 研究テーマ FIM『トイレ動作』確立に着目したトイレ動作介入プログラム指標の検証

病 院 名 ねりま健育会病院

演 者 佐藤裕太(看護師) ○岡田美久(看護師) 吉本敦子(看護師)  
中田典子(看護師) 岡徳之(作業療法士)

### 概 要

#### 【研究背景】

回復期リハビリテーション病棟には患者を自宅に復帰させるという大きな使命がある。梅本ら1)は自宅退院とFunctional Independence Measure(以下FIM)の関連性でFIMトイレ動作5点を境に自宅・非自宅に別れると述べ、トイレ動作は日常生活動作の中で自宅退院の成否に大きく関与する。そのため、FIMトイレ動作5点を目標に生活時間を有効に使い動作を確立していく事が重要である。佐藤2)らは病棟看護師がトイレ動作介入プログラム(以下プログラム)を取り入れ介入する事が有効であると示唆している。今回、同法人内での回復期リハビリ病棟開設に伴い、入職時研修にプログラムを導入し、スタッフのスキルアップを目指した。伊藤ら3)は専門知識の取得、レベル統一を図る為に院内教育を充実させる事でスタッフの意識向上に繋がると述べている。

#### 【研究目的】

プログラムを入職時研修に導入し、妥当性を再検証する事でより高い信頼性が得られると考えた。

#### 【研究方法】

研究期間:H28年7月25日~H29年12月25日  
方法:プログラムの有効性の再検証  
対象:入院時FIMトイレ動作2~4点で期間中に退院した患者。1点の患者、急性転化は除外した。  
分析方法:FIMトイレ動作を従属変数、介入の有無と時間経過を独立変数として、 $\chi^2$ 検定を実施した。  
倫理的配慮:N病院倫理委員会の承認を得た。

#### 【結果】

プログラム導入前の対象40例の内、入院時トイレ動作5点未満だった群は退院時に21例、約53%が5点以上へ向上した。対し、プログラム導入後の対象91例の内、入院時FIMトイレ動作5点未満だった群は退院時に76例、約84%が5点以上へ向上し約31%増加が認められ、P値:0.043と有意差が見られた。自宅復帰率は、プログラム導入前63%から導入後79%と増加を認めP値:0.043と有意差が見られた。

#### 【考察】

本研究では、病院の開設に伴い入職時研修にプログラムを導入し再検証をした。その結果FIMトイレ動作5点以上の改善率、自宅復帰率に有意差を認めた。つまり、FIMトイレ動作5点を目指す介入としてプログラムの信頼性が向上したと言える。また、院内教育を充実させた事で、スタッフのスキルアップとトイレ動作に対する意識向上に繋がり、今回の結果が得られたと考える。

#### 【結論】

入院時FIMトイレ動作2~4点から退院時5点以上に改善した割合が有意に増加しプログラムの信頼性が高まった。プログラムを入職時研修に導入した事がスタッフのスキルアップと意識向上に繋がった。

#### 【参考文献】

- 1) 梅本吉昭. 回復期リハビリテーション病棟の自宅復帰への影響する因子-FIMからの検討
- 2) 佐藤裕太 FIMトイレ動作確立に着目した考察 2016
- 3) 伊藤 大阪透析研究会誌10巻1号 39~43 1992